

2015年3月18日

政策研究レポート

新東名高速道路(愛知県区間)の開通による経済効果 ～交通混雑により抑制された「お出かけ」行動の活性化～

政策研究事業本部 名古屋本部 研究開発部 副主任研究員 水谷洋輔
主任研究員 右近 崇

概要

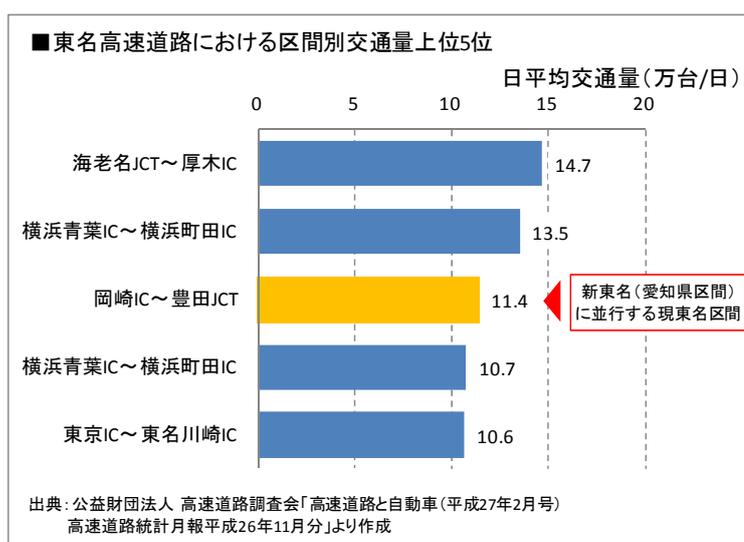
- ・東名高速道路(三ヶ日 JCT～豊田 JCT 間)で発生している交通混雑のために静岡県や愛知県への観光行動が抑制されているとの仮説をもとに、新東名高速道路(愛知県区間:浜松いなさ JCT～豊田東 JCT 間)の開通(2015 年度中開通予定)およびそれに伴う東名高速道路の混雑緩和で、両県にどの程度の観光交流が発生するかを推計した。
- ・愛知県、静岡県および周辺地域へのアンケート結果によると、東名高速道路(三ヶ日 JCT～豊田 JCT 間)で発生している交通混雑によって観光・レジャー行動を控えた経験のある人は 43%であった。
- ・アンケート結果に基づき試算すると、新東名高速道路(愛知県区間)の開通後、愛知県と静岡県合わせて年間約 1,100 万人(H25 年比ⁱで約 9%増加)の観光客数の増加が見込まれる。また、増加した観光客による観光消費額は年間約 1,000 億円増加(H25 年比ⁱで約 11%増加)すると推計された。
- ・新東名高速道路(愛知県区間)の開通による観光客数および観光消費額の増加を確実に地域に取り込み、より拡大を目指していくためには、各地域で観光魅力の情報発信や魅力向上に向けた地域づくりを着実に進める必要がある。

新東名高速道路(愛知県区間)(以下、「新東名(愛知県区間)」という)は浜松いなさJCT～豊田東JCT間の全長55kmとなる区間で、2015年度(平成27年度)中の開通に向けて工事が進められている。これに並行する東名高速道路(以下「現東名」という。)の三ヶ日JCT～豊田JCT間は、両端で複数の高速道路の交通が合流するボトルネック箇所ⁱⁱⁱとなっており、現東名の中でも3番目に交通量ⁱⁱⁱが多く、日平均交通量は10万台を越える。



また、同区間は、中部圏の高速道路における主要渋滞箇所^{iv}に選定されている区間を含み、日常的あるいはゴールデンウィーク・お盆・年末年始など交通集中期に発生する混雑渋滞緩和が課題となっている。

そのため、新東名(愛知県区間)の開通効果の一つとして、現東名(三ヶ日JCT～豊田JCT間)の混雑や渋滞緩和が期待されており、沿線自治体のほか、日本の大動脈となる高速道路として、広域的な交易活動の効率化や観光等における交流活動の活性化に対する期待も高い。



本調査では、現東名（三ヶ日JCT～豊田JCT間）における混雑・渋滞が、同区間を跨ぐような観光/レジャー行動、いわゆる「お出かけ行動」を抑制しているとの仮説のもと、新東名（愛知県区間）の開通によって、並行する現東名の混雑・渋滞が緩和された場合の交通量の変化を求めた。

具体的には、新東名（愛知県区間）の周辺地域にお住まいの方に対してアンケート調査を実施し、自動車で自由に出かけられる移動環境、新東名（愛知県区間）の開通による愛知県・静岡県への年間旅行回数の変化、観光/レジャーに伴う消費単価等を把握した。それらの結果を用いて、新東名（愛知県区間）開通時に愛知県および静岡県を訪れる観光客数や観光消費額を試算した。

アンケート実施概要

調査時期	2014年11月14日～11月17日
調査地域	愛知県（3地域：尾張・知多、西三河、東三河） 岐阜県（2地域：西濃・岐阜、中濃・東濃） 三重県（1地域：北勢） 静岡県（2地域：西部、中部） の計8地域
調査手法	WEBアンケート
サンプル数	1地域 220 サンプル×8地域=1,760 サンプル
主な調査項目	現東名（愛知県区間）における混雑・渋滞で観光/レジャー行動を抑制した経験の有無 新東名（愛知県区間）の開通に伴う愛知県・静岡県への「お出かけ」需要の変化

アンケート調査の結果、現東名（三ヶ日JCT～豊田JCT間）で発生している混雑・渋滞のため、その区間を通過してまで、観光/レジャーに行こうと思わなかった経験を有する方は4割以上（43%）に達することがわかった。また、新東名（愛知県区間）の開通後を想定し、年間の旅行回数の見通しを伺ったところ、愛知県に対しては0.85回/年・人の増加、静岡県に対しては0.64回/年・人の増加が見込まれる。

これらの結果を活用して試算した結果、愛知県・静岡県の両県を訪れる観光客数は1,163万人増加すると期待される。（愛知県へは延べ664万人/年の増加、静岡県へは延べ499万人/年の増加）

また、この観光客数の増加に伴う観光消費額の変化は、愛知県・静岡県の両県で1,007億円/年増加すると算出結果を得た。（愛知県では552億円/年の増加、静岡県では455億円/年の増加）

今回の試算は、観光/レジャー行動に着目し、新東名(愛知県区間)の開通による現東名の混雑や渋滞緩和によって、これまで抑制されていた観光/レジャーの「お出かけ行動」の顕在化、それに伴う来訪者数の増加や観光消費額の増加を通じて、地域活性化に貢献する可能性を示したものである。

なお、本推計結果は、周辺地域からのマイカーでの移動を前提としており、バスツアーなど他の交通手段や遠方地域からの来訪者数が試算結果の上ぶれ要因として想定される。

一方で、現東名の混雑緩和に対する回答者の期待を込めた回答も含まれていると考えられるため、新東名開通後の「お出かけ行動」を確実に取り込むことが肝要である。新東名(愛知県区間)の開通を目前に控え、新東名沿線地域等を核とした、観光魅力の情報発信や魅力向上に向けた地域づくりを着実に進める必要がある。

ⁱ 観光庁「全国観光入込客統計のとりまとめ状況(年間値:平成25年)」

ⁱⁱ 車線減少箇所や坂の勾配による減速箇所など、交通渋滞を発生させる箇所をいう。

ⁱⁱⁱ 公益財団法人 高速道路調査会「高速道路と自動車(平成27年2月号) 高速道路統計月報平成26年11月分」より海老名JCT~厚木間、横浜町田~海老名JCT間に次いで3番目。

^{iv} 中京圏渋滞ボトルネック対策協議会「地域の主要渋滞箇所(高速道路)」(平成25年1月22日発表)

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

新東名(愛知区間)の開通による経済効果 算出フロー

○仮説

- ・現東名(三ヶ日JCT~豊田JCT)で発生する混雑/渋滞により、当該区間を利用した観光行動が抑制されている。
- ・新東名(愛知区間)開通により抑制された観光行動が活性化される。

[アンケート結果A]

※該当区間を通過してまで観光レジャーに行こうと思わなかった経験
⇒4割の方が経験

①人口の整理

分析対象範囲(下図)における人口を整理。

[H22年国勢調査 総人口]

[アンケート結果B]

※行動の意志決定の自由度が高い20歳以上の人口総数。
⇒1,019万人

※上記のうち、「自分が自由に使える自動車を持っており、いつでも出かけられる」環境にある人口。

⇒779万人

②旅行増加人数の算出

新東名愛知区間開通後、新東名区間沿線や、新東名・現東名の当該区間を跨いだ愛知県・静岡県への旅行増加人数を算出。

[アンケート結果C]

※年間旅行回数の現状、見直し

愛知・静岡両県の観光客数

1,163万人/年 増加

(約9%増 ※H25年値比較)

愛知県: 延べ664万人/年 増加

静岡県: 延べ499万人/年 増加

③観光消費インパクト算定

③の増加人数に、アンケートから把握した観光消費単価を乗じて、観光消費額の増加分を算出。

※新東名愛知区間の開通によって想定される観光消費インパクト

愛知・静岡両県の消費額

1,007億円/年 増加

(約11%増 ※H25年値比較)

愛知県: 552億円/年 増加

静岡県: 455億円/年 増加

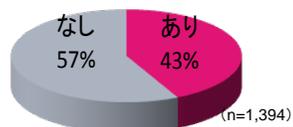
[アンケート調査結果]

A: 東名の混雑/渋滞で観光行動が抑制されている可能性

混雑/渋滞が「お出掛け」を控えることにつながっている。

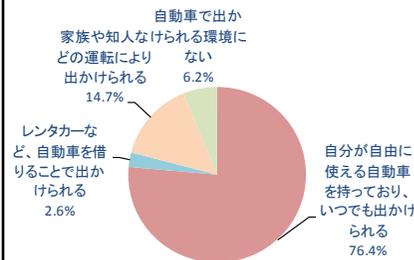
- ※先入観から、無意識に当該区間を利用した観光行動を選択肢から排除。
- ※当該区間の混雑/渋滞のため、その方面へのお出掛けを止める。

◆ 該当区間を通過してまで観光レジャーに行こうと思わなかった経験



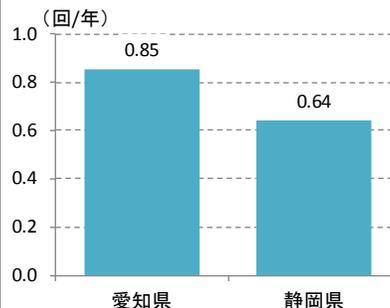
B: 自動車の利用環境

「自分が自由に使える自動車を持っており、いつでも出かけられる」人は76.4%



C: 新東名愛知区間の開通による年間旅行回数の変化

愛知県へは0.85回/年・人の増加
静岡県へは0.64回/年・人の増加



■アンケート調査の分析対象範囲

